

丸亀城管理室だより No.18



令和5年度の予定



石垣復旧工事が始まってから6年目に突入しました。

今年度は石垣の解体・回収工事がようやく終了する予定です。そのため、今後は石垣の積み上げに向けた新石材の製作や、復旧設計を行うなど、様々なことを協議し、決定していく大事な年度になります。

【石垣解体回収工事】

- ・ブルーシートの下に一部残っている、崩落土や崩落石の除去・回収を行います。
- ・解体回収した石材と、場内グラウンドで石材調査を行い、石材置場へ運び出した後、積み直し時まで保管します。



【新石材製作】

- ・崩落により割れたり砕けたりした石材は再利用できないため、備讃瀬戸の島々から新しく石材を調達します。
- ・新しく調達した石材は、元通りの形に加工して積み上げます。



【復旧設計】

- ・復旧設計について、石垣復旧専門部会を開き、有識者の委員と復旧工事に向けた詳細な協議を行い、様々な事項を決定します。
- ・専門部会で決定した内容について、文化庁より承認を受け、石垣積み上げの復旧工事に着手します。



D面追加解体の終了

昨年6月7日に着手した三の丸石垣D面（南面）の追加解体は、今年4月19日に無事完了し、その下方斜面の崩落土や崩落石の撤去・回収も5月20日までに終わりました。これをもって、平成30年末の応急対策工事から4年余りかかった一連の現地土木作業は、ほぼ終了となりました。あとは、三の丸石垣の根石すぐ下方の斜面に、崩落土や崩落石が一部残っている箇所があるため、撤去していきます。

工事現場の動きは少なくなります。今後は石垣積み直しに向けての協議を進めていくようになります。



D面の深部（帯曲輪石垣に埋め込まれた地中部）では、特に石の破損率が高くなります。この石も、前後に断ち切れています。

【D面40段目の解体状況】



【解体前のD面最下段(48段目)】



解体・調査終了後はモルタル吹付して法面を保護しています。

【現在のD面】

江戸時代の石垣補修時の基礎構造

三の丸坤櫓の石垣は、正保2年(1645)～慶安2年(1649)の間に崩れ、明暦3年(1657)頃までには補修したことが歴史資料から推測されます。D面37段目は、その時に補修されたと想定される箇所 の最下段です。その解体を行ったところ、下面に胴木痕を確認し、またその下の38段目の石材の上面には、胴木設置用の溝状の加工を確認しました。

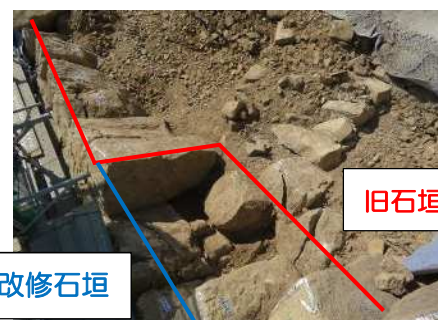
これにより江戸時代の補修時は、石を積み上げる際に下に溝状の加工を施し、2本の胴木を置き、その上に築石を積み上げていたことが分かりました。



【D面37段目】



【D面38段目・胴木設置用に加工された石】



【D面38段目・旧隅角部】

丸亀城の石材の違い

現時点で、11,700個以上の石材を回収しています。丸亀城の石垣に使われた石材の産地は、資料が残っていないため詳細は不明ですが、備讃瀬戸の島々では、江戸時代から石材を切り出しており、丸亀城からも遠くない距離にあるため、このあたりから調達されたと考えられます。

石垣復旧工事で回収された石材の表面を観察すると、黄色く粒が粗いものが最も多いですが、黄色く粒が細かいもの、白く黒い粒が細かいもの、白く粒が大きいものなど、様々な特徴が見られます。石材は産地によって色や粒の大きさに違いがあるため、丸亀城の石材は、一ヶ所だけでなく様々なところで調達したのではないかと考えられます。



【黄色く粒が粗いもの】



【黄色く粒が細かいもの】



【白く黒い粒が細かいもの】



【白く黒い粒が大きいもの】

第74回丸亀お城まつり開催

5月3日・4日に、丸亀お城まつりが開催され、2日間で約23万人が訪れました。

石垣復旧工事現場では、昨年大好評だった「石垣復旧工事ではたらく車に乗ってみよう！」のイベントと、工事現場内を見学できるイベントの2つを開催しました。特に、工事現場内を見学できるイベントでは、全国2位の31mの高さを誇る三の丸石垣の根石(土台の石)を見られる貴重な機会とあって、市内外から多くの方々にご参加いただきました。

